

## はじめに

近年、人々を取りまく健康及び安全阻害要因は、ますます多様化、複雑化しており、これらの解決のための研究開発は、広い視野から総合的アプローチが必要となってきました。

昭和52年から開始した新生児のスクリーニングは、関係各位の積極的な協力があり、円滑なる連携によって、札幌市出生児のほぼ全員が検査を受けており、昨年からは開始した小児がん神経芽細胞種のスクリーニングでは2例の患児を早期発見し、全国から注目されました。さらに本年からは開始した先天性副腎皮質過形成のスクリーニングでは、約9,000例のスクリーニングを行い、14例の精密検査を依頼するなど、札幌市における新生児のスクリーニングは、8月に開催された国際会議での報告等を含め、各方面から高く評価されています。

昭和57年度には電子顕微鏡等の導入により、臨床・微生物検査部門及び環境・食品検査部門並びに大気・水質検査部門の充実強化を図り、これらに関する調査研究、試験検査など、総合的機能の充実と技術水準の高度化に努めています。

今後は、市民の要請や行政上の必要性に対応していくため、現在の最大の念願である、精度の高い試験検査を実施する設備を備えた衛生研究所の新築実現のために努力いたしたいと考えております。

今後とも皆様方の一層のご鞭撻とご指導をお願い申し上げるとともに、この小冊子が、いささかなりとも関係者各位の方々に役立つことがあれば望外のよろこびであります。

昭和57年12月

札幌市衛生研究所長

高杉信男